

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援事業所 あゆみの広場 いっぽ
------	----------------------

公表日：令和7年3月24日

利用児童数：13名(2024年11月時点)

回収数：11名

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	81.80%	18.20%				スペースに限りがあるため、少し窮屈な時があるかもしれませんが、活動に合わせて安心できる空間が保障できるよう工夫をしていきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	90.90%	9.10%				固定化された環境にならないよう、一人一人のお子さん達にとってできるだけわかりやすい環境を見直しをしていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	81.80%	9.10%		9.10%	作業療法士さんや理学療法士さんがいらっしゃったらよりありがたいと思います。	専門職の配置について検討をしますが、難しい現状もありますので、外部の講師や研修等も活用しながら知識や技術を取り入れていきたいと思っています。
	6	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%					
	7	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%					
	8	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	91%			9.10%		
	9	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%					
保護者 への 説明 等	10	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%				とても丁寧に説明をいただきました。	利用者様やご家族様が福祉制度や事業所の運営等がわかり適切なサービスが受けられるよう、今後もより丁寧な説明を心がけて行きたいと思っています。
	11	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	12	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	72.70%	9.10%	9.10%	9.10%		日々の療育では保護者グループを運営させていただいていますが、計画的なトレーニングやプログラム等の実施には至っておりません。保護者様のニーズも含めて、学習会、情報提供の仕方なども検討していききたいと思います。
	13	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	100%					
	14	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%					
	15	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
	16	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	45.50%	9.10%	27.30%	18.20%		※質問項目NO.12の回答を参照
	17	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	81.80%			18.20%		
	18	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	90.90%	9.10%				
	19	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	90.90%	9.10%				
20	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	90.90%			9.10%		個人情報の取扱いについては十分留意していますが、気になることがございましたらお声かけいただけると助かります。	

非常時等の対応	21	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	90.90%			9.10%		各種のマニュアルを作成し、玄関に閲覧用を置かせていただいたり、公式LINEでの配布をさせていただいております。見直しや検討項目の確認などについては、適宜更新していく必要があると感じています。
	22	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%					
	23	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	90.90%			9.10%		
	24	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%					
満足度	25	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	26	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%					
	27	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援事業所 あゆみの広場 いっほ	公表日： 令和7年3月24日
------	----------------------	----------------

		チェック項目	はい	いいえ	利用児童数	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	85.70%	14.30%		子育て中の職員もいるため、職員の急なお休みなどがあっても対応できるようできるだけ複数の職員で支援に入るようにしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	85.70%	14.30%		ワンフロアであるため、隔離された個別空間を作ることは難しいですが、状況に応じて仕切りやマット・机等を使用して個別化された空間や場所を作っています。
業務 改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	85.70%	14.30%		法人の他事業所とも会議や研修ができる機会を定期的に設けています。非常勤職員には研修の案内をし、参加できなかった方には資料を配布させていただいています。事業者や講師の許可があれば、動画配信や録画などでの参加・研修機会の保障も検討していきたいと思っています。
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			支援プログラムを作成し、法人で一括して公表させていただく予定です。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	85.70%	14.30%		標準化されたツールの使用機軸はありませんが、それぞれの職員が行動観察し、それをどう考えるかを共有しています。適応行動の標準化されたフォーマルアセスメントは実施していないケースがあると思います。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	85.70%	14.30%	リハビリを実施しているセンターに研修依頼を行いました。今年度は開催が難しいとのことでした。研修時間と療育時間の調整が難しいことも多く、積極的な連携や機会を作ることができていないのが現状ですが、可能範囲で研修会等に参加するようにしています。	
	29	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	30	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			
保護者への説明等	31	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	32	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	33	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	34	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	35	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%			
	36	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	37	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	86%	14.30%	療育時は保護者様が同席しているため、積極的な発信はしていませんが、事業所の概要については、法人HPにて公表させていただきます。	配信や配信方法等については、今後保護者様のニーズなどお聞きしながら検討していきたいと思います。
	38	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	39	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
		40	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		
41		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			

非常時等の対応	42	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	43	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	44	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	45	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	46	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	47	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	48	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	83.30%	16.70%	現在は対象となるお子さんがいませんが、必要に応じて対応できるようにしていきたいと思 います。身体拘束等は虐待防止マニュアルの作成や虐待防止研修の実施等により、職員全体 で知識の共有を図っています。	

令和6年度自己評価と保護者評価について 第3者意見

評価日 : 令和7年3月24日

第3者評価者名 : 山川秀一

事業所名 : あゆみの広場 いっぱ

区分	評価	助言
環境・体制整備	とても工夫した活動の環境が準備されていると思います。玄関を入った時から一人一人の特性や様子に合わせた視覚支援やワークシステム等工夫されています。子ども達が活動に気持ちよく入れるようスタートをさりげなく大事にされている等がとても良いです。	目に見える環境や体制だけではなく、少人数でのグループ活動の中で子ども達が取り込んでいく情報や行動の手順も大切な環境の一つだと思います。特に活動やねらいに合わせた場を作ることや指導者がどこにいるのか、どの先生に注目しやすくするか、何に注目させるか等工夫されている良さをぜひ広げてほしい。
適切な支援の提供	個別の支援計画をできるだけ固定化しないように考えられていると感じます。毎日保育をしている園や所とは違って週に1回の療育では1年を通しての変化を見通す必要があると思います。その意味でも1年間の見通しをもって活動を計画されているところが良いと思います。	いっばでの自立活動が家庭での生活にどうつながるのか、就学後の学校生活にどうつながるのかを意識しながら取り組まれていると思います。支援が必要だから、特性があるから、学校に就学したら困るからという視点だけではなく、子ども達はその時その時の多様な学び方をしていることを広げてほしい。
保護者への説明等	1回1回の療育の場面で、できるだけ保護者と話し合うことを大事にされてると思います。特に保護者自身から子育てについての意見を出しやすくしているところが良いと思います。	作業療法士や理学療法士といった専門的な視点も大事だが、日々の活動の中で保護者にも伝わりやすい内容で話し合っていると思います。支援や配慮がないことで心配になりやすい保護者が多い中で、支援を求めることと保護者自身が育てることを分かりやすく伝えていくことができる場として取り組んでいってほしい。
その他	就学前から小学校への移行がうまくいくように学習会などにも積極的に参加されていることが良い。	将来的には他の事業所や園、所の保育士、学校の教員も巻き込んで考えていく機会や発信を考えてほしい。